

## 今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL: 0164-62-1779 FAX: 62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp

畑作・園芸編も  
HPで公開中!

移植後は一時的な低温や強風もありましたが、苗の植え傷みは少なく、概ね順調な生育となっています。今後は分げつ発生や初期生育を促進する管理に努め、良食味米の安定生産を目指しましょう。また、6月末以降は、不稔を防止する冷害危険期の管理が重要となるので、朝夕の水まわりの時には排水口や畦を確認して深水管理に向けた準備を行いましょ

### 1 活着期～分げつ初期の水管理 ～基本は浅水管理～

- (1) 活着後は基本的に浅水管理として、分げつの発生を促進しましょう(図1)。
- (2) 入水は夜間～早朝に行い、昼間は水を止めて水温を上昇させましょう(適温は25℃以上)。昼間の入水は水温を低下させます。

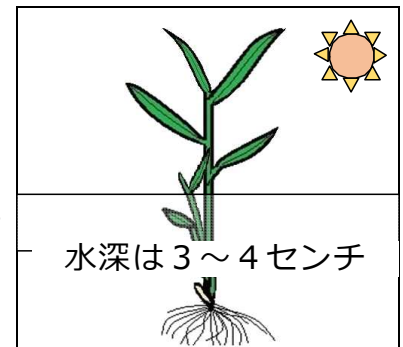


図1 活着後の水管理

### 2 除草剤散布のポイント ～適正な処理で効果を高めましょう～

- 農薬使用時は登録内容をラベルで必ず確認しましょう
- 除草剤は、散布時期と雑草の発生状況を確認し、効果的に使用をしましょう
- 風が強い日はドリフトや吹き寄せによる薬害に注意してください

- (1) **一発処理剤**の散布は、水深は3～5 cm(ジャンボ剤や一部のフロアブル剤の使用方法を除く)の止め水にし、7日間は掛け流しや落水を行わないでください。
- (2) **ジャンボ剤**は有効成分が拡散するように、水深5～6 cmにして投入します。
- (3) **フロアブル剤**の水口処理は、均平度が高く水持ちの良い水田で、6時間以内に5～6 cmの入水が可能な水田に限ります。また、入水後オーバーフローしないように、畦畔が極端に低い水田での使用は避けてください。
- (4) **昨年度に田面の乾燥が激しかった水田**は減水深が通常年より大きくなり、薬害や効果の低下が発生する恐れがあるので注意して下さい。散布後7日間以内に田面が露出する場合は、静かに入水して露出を解消して下さい。
- (5) 残草を発見した場合は、種類や発生量を確認して、必要に応じて後期剤等の使用を検討しましょう。

### 3 ワキの発生程度とその対策 ～水田がブクブクしたら～

排水不良田や稲わらをすき込んだ水田は、土壌中の酸素不足でワキが発生しやすくなり、硫化物や有機酸等有害物質が発生し、根の活動・養分吸収を阻害します。表1を参考にワキの程度に応じた対策をしましょう。

表1 ワキの程度とその対策

ワキの程度	水田の状態	根の状態	対策
軽	水田水の表面にわずかな気泡が生じる。足を踏み込むと気泡が発生する。	白根が30%以上	暗きよ水こうの解放 水の入れ替え
中～強	多くの気泡が生じる。足を踏み込むと一斉に音を立てて気泡が発生する。	白根が30%以下	好天日に落水・溝切り 連続高温日に中干し

※極端な低温が予想される場合は中干しを行わず、水の入替え程度でとどめましょう。

### 4 幼穂形成期を確認しましょう！ ～深水管理で、幼穂を低温から守りましょう～

幼穂形成期から約20日間は、花粉が作られる重要な時期です。深水管理を行い稔実歩合を高めましょう。

#### (1) 幼穂形成期の確認 ～幼穂が2mmに達した日が「幼穂形成期」～

表2 幼穂の長さから判断する幼穂形成期

幼穂の長さ (mm)	1	2	5	10	15
幼穂形成期の目安	2日後	当日	3～4日前	6日前	8～9日前

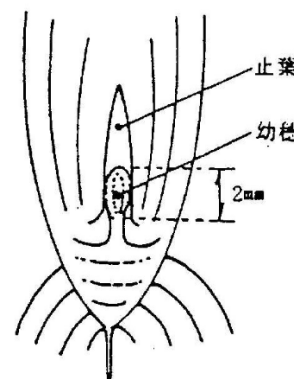


図2 幼穂の断面

表3 幼穂形成期の平年値（普及センター調べ）

成苗ななつぼし	苫前町 6/27	羽幌町 6/28
中苗風の子もち	初山別村 7/3	遠別町 7/5

#### (2) 前歴期間 ～幼穂形成期から10日後の期間で花粉の数が決まる～

水深は1日1cm程度高くなるようにし、最終的に10cmになるよう徐々に深水にします。茎数が不足している場合は、最初の5日間程度は水深5cmで分けつを促し、その後徐々に入水し水深を10cmにします。

#### (3) 冷害危険期間 ～前歴期間後7日間で花粉が発育する時期～

水深は18～20cmを目標に1日1～2cm程度入水し、可能な限り深くしましょう。

#### (4) 入水について ～余裕を持って、徐々に入れましょう～

慌てて大量に入水すると①水温が下がる②地域用水量が減るといった問題があります。

刈払機使用の際には、プロテクターや保護めがね等を装着しましょう！

